

姫小川町内会では、令和6年度に

「地区防災計画」を策定しました!



地区防災計画とは

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「共助の力」を育む取り組みです。

計画策定までの流れ

町内会役員、組長、各種団体などが地域の代表として集まり、過去の被災地支援の実績がある認定NPO法人愛知ネットの協力を得て、ワークショップ（話し合い）を行いました。

参加者で意見交換を行い、令和7年度以降に防災活動の内容を作成しました。

実施内容(ワークショップ3回)

ワークショップ①

地区防災の理想と課題を整理

地域の特徴から地域防災を考えるワークショップ（話し合い）を行い、地域防災の理想（あるべき姿）を考え、「**転ばぬ先の備え・姫小川**」をみんなのテーマとしました。



ワークショップ②

災害時の課題に対するアプローチ方法

安否確認、防災訓練、備蓄食料などの災害時の課題から1つを選択して、課題解決に向けた話し合いがなされました。



ワークショップ③

防災活動メニュー企画書の作成

課題解決に向けての具体的なアイデア出しを行いました。

企画書の内容は裏面をご覧ください



姫小川町内会でこれから取り組む「地区防災計画」

グループ A

防災倉庫を知ろう

目的 防災倉庫の場所、保管資機材の認知

対象者 組長

協力者 町内会役員、消防団

内容

防災訓練（11月）担当組長に防災資機材を運搬、展示してもらう。また、実際の動作確認もしてもらう。

→2か所の防災倉庫からJA駐車場に運搬する。

※その際、鍵の所在も明らかにする

グループ B

姫小川 防災意識向上作戦

目的 地区や組ごとの状況に応じた防災活動

対象者 町内全員

協力者 町内会役員、組長全員

内容

一斉清掃後の出欠確認時に、組ごとに地域に合った防災課題を話し合う

※テーマは組長が選択できるように数パターン作成する。
（町内会役員と組長で）

グループ C

防災意識向上委員会

目的 防災意識の再認識と、自助の必要性の認識を目的とする

対象者 全組長→子ども会・白老会→全組員

協力者 町内会から働きかけを行う
（市役所、消防→その先に外部講師の可能性もあり）
※費用については、町内会の予算で負担する。

内容

- いつ→組長会
- 何を→災害発生時の悲惨さの実態や、その後の大変さを認識してもらう。
また、自助や共助（助け合い）の大切さを知る。
- 誰が→経験者
（消防署、市役所、ボランティアなどに相談）
- どのように→プレゼン（映像など）、
その後は話し合いをする。感じ方の共有

グループ D

個人備蓄品のチェック

目的 町内会では追いつかないので

対象者 町民

協力者 町内会でリストを作ってもらう
→役員と市役所にも協力してもらう
総代・組長・姫の会・子ども会

内容

- リスト、ジャンルごとに分けて作る
 - 老人、子ども、ペットとかわかりやすく
 - オムツ、ペット食、トイレなどのチラシを作成する
 - ①子ども世帯、老人、ペットがいる人別のチェックリスト作成
 - ②食品はローリングストックを推奨する
 - ③各自、必要な物を用意する
- ※水、消臭袋、卓上コンロ、ボンベ、トイレ、凝固剤、便袋、ペーパー、ラップなど

グループ E

防災用の連絡網の作成 （町内会のものを活用）

目的 災害時の安否確認・情報発信

対象者 第1優先：町内会の加入者
第2優先：町内会未加入者の取り込み

協力者 前組長、前役員
年に1回は組全員の集いの会とする。

内容

- 連絡網の作成と運用方法の検討をする。
 - 訓練を行いながら、円滑に進めるための課題を明らかにする。
 - トライアンドエラー（何が失敗であったのか検証をして、次に活かす）を重ねて実施
- ※町内会組織を活用して行動（組長）
※第2公民館で拠点とする。←現組長、前組長が集合